

公園池におけるアメリカザリガニ防除の取り組み -光が丘公園バードサンクチュアリ池と井の頭池

認定 NPO 法人生態工房 片岡 友美

東京の武蔵野台地に位置する都立光が丘公園バードサンクチュアリ池（0.7ha、練馬区）と都立井の頭恩賜公園井の頭池（4.2ha、三鷹市）では、当団体が10年～20年にわたり公園管理者からの委託や地域団体との連携によって水生外来生物の防除を行ってきた。どちらの池もかいぼりでオオクチバスを根絶したが、ブルーギルは低密度で生き残っている。このため、遮光式カゴ網（アイカゴ）による駆除を継続している。また、ウシガエル、ミシシippアカミミガメについても積極的な駆除を行い、低密度化に成功している。こうした中、最近新たな課題としてアメリカザリガニの増加が顕在化し、駆除対策に取り組み始めたところである。本発表では、サンクチュアリ池と井の頭池の各池において、アメリカザリガニの生息および捕獲・駆除状況について報告する。

1 バードサンクチュアリ池の状況

2001年にかいぼりでオオクチバスを根絶した後、ブルーギル、ウシガエル、ミシシippアカミミガメの駆除を継続し、低密度化に成功した。2015年からアメリカザリガニを対象とした遮光式アナゴカゴ（市販の小型もんどりに遮光シートを貼り付けたもの）を導入し、従来のアイカゴと併用して毎年5月から11月まで駆除を行っている。



図1. アナゴカゴによる捕獲



図2. 1日分の捕獲量

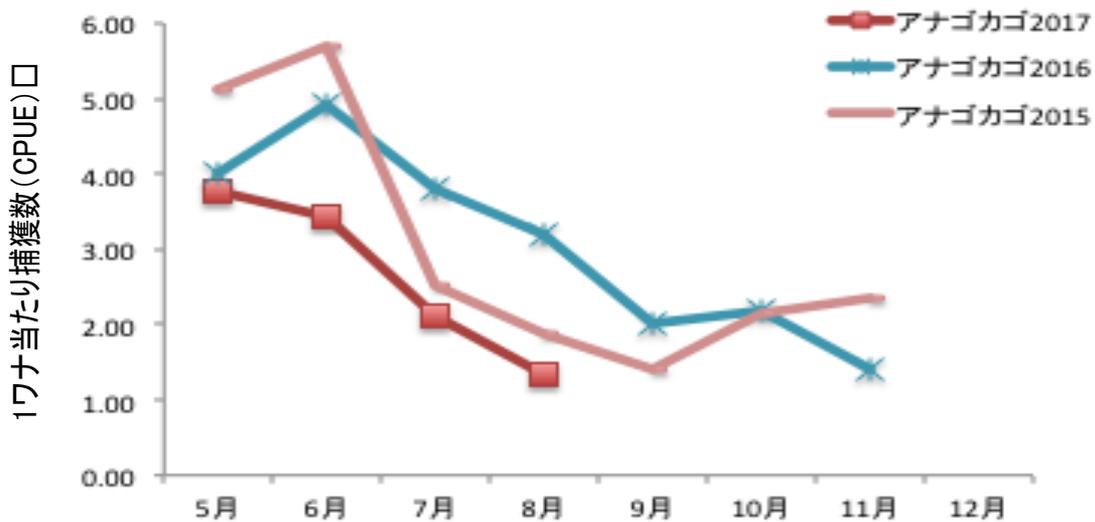


図3. 2015年から2017年までの 遮光式アナゴカゴによる各月の口捕獲数

これまでの捕獲状況について（図3）、2015年および2016年は6月が最も捕獲数が多く、7月から急激に下降し、10月に再び小さめのピークが見られた。しかし、2017年は開始月の5月が最も捕獲数が多くなり、以後は下降した。また各月の捕獲数も2015年および2016年を下回る結果となった。2017年は前年までの駆除圧によって、個体数の低減化が示唆される状況であることが分かった。

2 井の頭池の状況

2014年～2016年に2回のかいぼりを行ってオオクチバスを根絶したが、その後アメリカザリガニの増加傾向が顕在化した。一方、当池ではかいぼり後に池底の埋土種子から数種の沈水植物が60年ぶりに復活し、なかでも絶滅危惧種イノカシラフラスコモの復活は大きな話題となった。このため、水生植物に直接被害を及ぼすアメリカザリガニの脅威が喫緊の課題となり、2014年のかいぼり後から公園管理者である東京都が当会に委託して駆除を開始した。



図4. アメリカザリガニの駆除活動は都が募集した市民ボランティア（井の頭かいぼり隊）と一緒にしている。

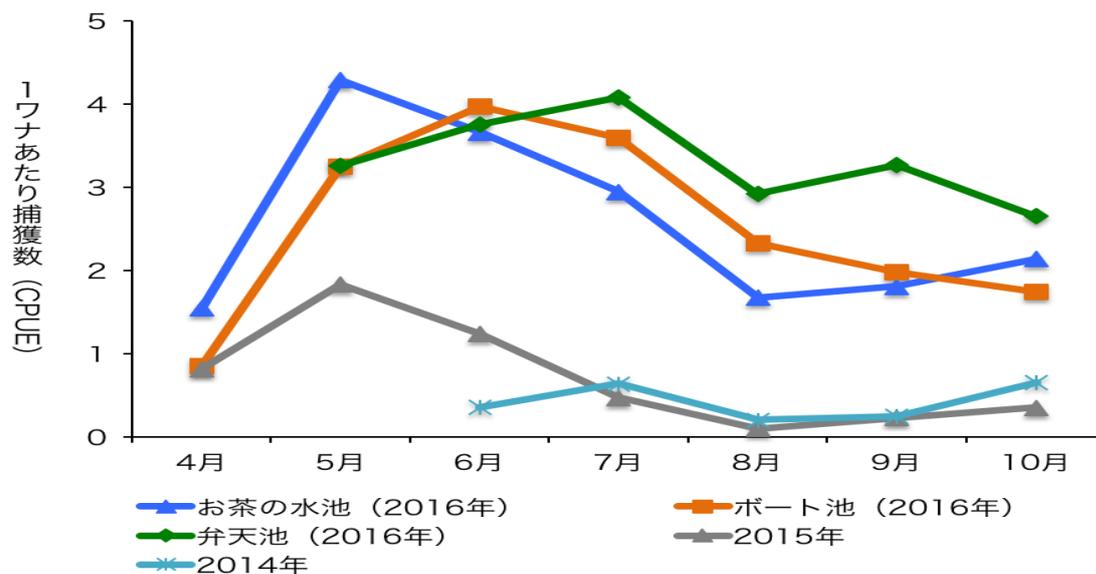


図5. 2014年から2016年までのアイカゴによる各月の捕獲数

2014年の1回目のかいぼりでは池の一部しか水抜きをしなかったが、2015年の2回目のかいぼりでは池の全域で水抜きを行った。このため、1回目のかいぼり後から2回目のかいぼり前までのアメリカザリガニの捕獲数は図5において2014年と2015年で示し、2回目のかいぼり後は2016年として池ごとに示した。各月の捕獲数において、5月～7月のいずれかで最も多くなり、以後は下降したが、10月に再び小さめのピークが見られる場合もあった(図5)。また1回目のかいぼり後の2014年と2015年では捕獲数の大きな増減が見られなかった。一方、2回目のかいぼり後の2016年においては、すべての池で前年と前々年の捕獲数を大きく上回った。この結果から当池では2回のかいぼりによって外来魚は激減したが、アメリカザリガニが著しく増加したことが明らかになった。今後、駆除対策の推進と強化が必要な状況であることが分かった。

(連絡先：片岡友美 kataoka@eco-works.gr.jp)